



第 18 号

1995年 3 月

岡山県古代吉備文化財センター

▲ 西江遺跡（哲西町）出土特殊器台文様



大田茶屋遺跡古代建物跡群

丘に建つ古代の大形建物群

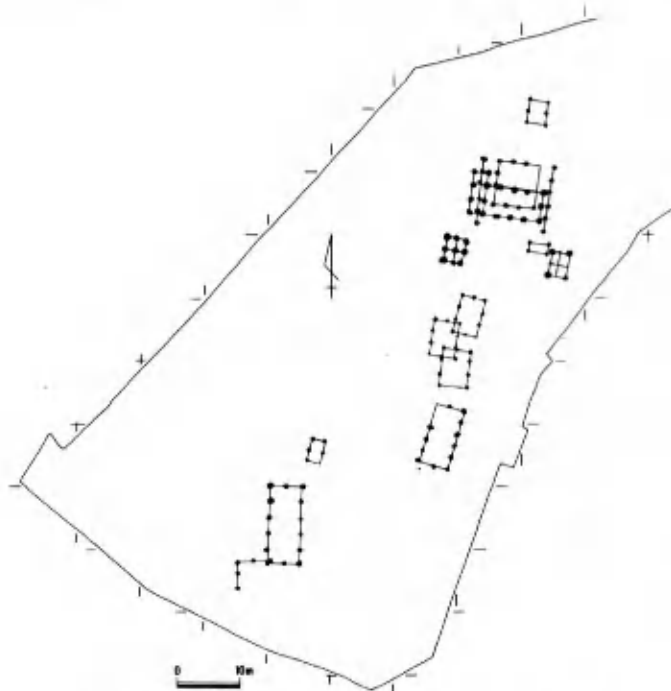
ーグリーンヒルズ津山建設事業に伴う発掘調査ー

この丘から南を望むと、そこには津山市街地が眼下に広がっています。奈良時代、この盆地には美作国府が置かれ、一国の政治・文化の中心地として栄えてきました。津山市の発展はここに始まったと言ふべきでしょう。遺跡の名前は、大田茶屋遺跡で、写真の建物群は美作国府に関係した施設と考えています。

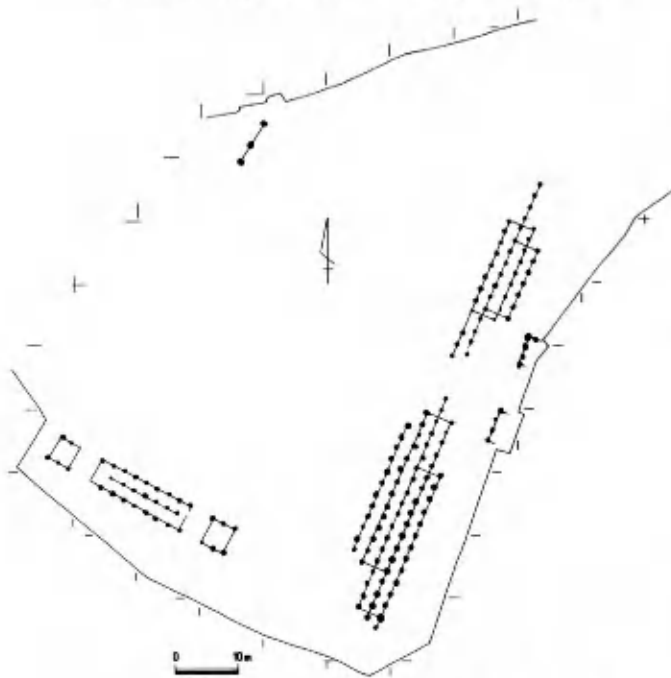
写真の中の白線は、発掘された建物がよくわかるように引いたものです。円は柱穴を縁取っていて、それらを結ぶ直線は壁や扉を示しています。ですから、白線で描かれた一つの長方形が、一棟の建物ということになります。たくさんの建物が重なり合っていますが、これは数十年間にわたって建て替えられた結果を一時に眺め

ているためです。よく見ると、棟の方向を揃える一群の建物を認めることができます。これに

よって、ある一時期の建物の配置を推測することができます。



大田茶屋遺跡古代建物群 I期 (S=1/1,200)



大田茶屋遺跡古代建物群 II期 (S=1/1,200)

この大田茶屋遺跡については、前号の『所報吉備』(第17号)に概要を報告しましたが、その後、一つの地区での調査が終了し、その全容がほぼ明らかになりましたので、あらためてまとめてみたいと思います。この地区は遺跡の西端にあたり、一つの舌状丘陵の頂から東斜面にかけての部分にあたります。

古代の建物は23棟検出されましたが、前述のような棟の方向や柱穴を埋めた土の違いから、大きく二つの時期に分けられます。古い時期をI期、新しい時期はII期と呼んでおきます。左の図でも明らかのように、それぞれの時期でも建物の重なりがあることから考えて、I期は二つないし三つ、II期は二つの時期に細分が可能です。しかし、個々の建物の正確な年代についてはこれからの整理で検討していくこととなります。

I期の建物群は、北端に施設の中心と思われるやや大形の建物が位置し、その南前面に南北方向の棟の建物が並んでいます。中心の建物は一度建て替えられたようですが、両側に塀をもち、南前面の東西に倉庫を並べた計画的な配置は特異です。建物群の南端にも独立して大形の建物が一棟建っていました。前号(17号)で紹介した奈良時代後半の瓦はI期に伴うようです。

II期の建物群は、丘陵を取り囲んで長大な建物が規格性をもって配置されています。建物に囲まれた広い空間が何に使われたかを考えることが、この施設の性格を解く鍵になるのではないかと思います。(岡本寛久)

センターの年間事業（平成6年度）

調査第一課

調査第一課では、主に県が行なう諸開発に伴う発掘調査を実施しました。全面的な調査としては、勝央町のファーマーズマーケット建設、津山市のグリーンヒルズ津山建設、美作町の農道美勝線建設、久世町の県北流通センター建設、総社市の国道429号線建設、岡山市の都市計画道路万成・国富線建設、同市の県道吉備新線建設、岡山工業高等学校の校舎建築に伴う発掘調査を行ないました。岡山市内の中国電力内山下変電所建設に伴う岡山城二の丸跡の発掘調査についても、調査委員会を設置して対応しました。

一次調査として遺跡の広がりや性格の調査をしたものとしては、八束村の国道313号線建設に伴う下長田散布地・上野古墳、鏡野町の国道179号線建設に伴う九番丁場遺跡・大開遺跡、津山市の津山高等学校の仮設校舎建設に伴う十六夜山古墳関連遺跡、岡山市の国立病院建設に伴う田益田中遺跡、総社市の前川改修工事に伴う上林散布地等があります。

報告書作成事業では、県立大学建設に伴う南溝手遺跡を第一分冊として刊行しました。足守川加茂A・B、矢部南向遺跡の報告書は一括して刊行しました。県道津山・加茂線建設に伴う大田茶屋遺跡、干田川改修に伴う土師東・福里遺跡、米田排水機場建設に伴う米田遺跡は、昨年度調査したものを刊行し、農道美勝線建設に伴う大年古墳群については、今年度前半に調査したものを年度内に刊行することができました。



中溝遺跡7区弥生前期水田と溝(南から)



小中遺跡4区A(空中写真)

国庫補助を受けて実施している県内遺跡詳細分布調査は2年目にあたり、美甘村、八束村、川上村、上斎原村について実施しました。いずれの村でも、以前はわずかしき確認されていなかったが、今回の調査で多数の遺跡を発見することができました。事業は来年度も継続します。

今年度の発掘調査で注目されるものとしては、弥生時代の大型竪穴住居跡群が検出された勝央町の小中遺跡、古墳時代後期の前方後円墳を確認した美作町大年古墳群、奈良時代の建物群が発見された津山市大田茶屋遺跡がありますが、これらについては前号で報告しています。

岡山市田益の青谷5号墳は吉備新線の建設に伴って調査しました。やや大型の横穴式石室を内部主体とした円墳で、須恵器、鉄器、玉類を出土し、6世紀後半に築造され、7世紀代まで追葬が行なわれていることが分かりました。

普及啓発事業としては、今年度がセンター開設10周年にあたることから、平成6年11月26日、岡山県郷土文化財団と共催で「記念講演会」を開催しました。平成5年度における主要な発掘調査報告と奈良国立文化財研究所所長による「農耕の開始と発展」と題する講演をいただきました。なお、市町村への遺物移管のための整理作業を行なっています。

(正岡睦夫)

調査第二課

調査第二課の本年度事業は、中国横断自動車道建設と山陽自動車道拡幅にともなう発掘調査、そして山陽自動車道建設にともなう発掘調査の報告書作成を行ないました。

中国横断自動車道の調査は、総社市藪田古墳群、金黒池東遺跡、西山古墳、服部遺跡、北溝手遺跡、窪木遺跡、岡山市高松田中遺跡を4月から1月まで実施しました。このうち藪田古墳群は昨年度未実施となっていた7号墳の調査を行ないました。しかし、確認調査の結果、石材は露岩であることから古墳ではないことが判明しました。

金黒池東遺跡は丘陵斜面にあり、一部昨年度調査しましたが、その続きを調査し、縄文後期の土器と古代の火葬墓1基を発見しました。

西山古墳は丘陵の先端に立地する径20mの円墳です。墳頂は開墾による削平が進んでいますが、ほぼ中央部から長さ1.8m、幅1.1mで、床面には河原石を敷き詰めた土壌が発見されました。この土壌の南側短辺には墳丘外へ延びる排水溝が取りつきます。しかし、この土壌の形態は古墳の埋葬施設としてはあまり類例のないものですし、また土層からも明確に古墳に伴うものであるという確証は得られませんでした。また、丘陵上からは弥生時代中期末の竪穴住居や柱穴等も発見されました。



西山古墳（竪穴住居と墳丘）

服部遺跡は平野に立地します。遺物は弥生時代から近世の土器などが出土しますが、遺構はあまり多くはなく、主なものとしては弥生時代から古墳時代初頭の粘土採掘場が発見されています。この粘土採掘場は、径50cmから200cmの円形および楕円形で、約300mの間に群集していました。

北溝手遺跡も平野に立地します。遺物は縄文時代晩期から近世まで出土しますが、遺構は多くありません。弥生時代の微高地はわずかで、そこからは環濠の一部と思われる大溝や井戸などが発見されていますが、それ以外の多くは水田が広がっていました。中世の遺構は、溝を主体に土壌などが全域に点在していました。なお、縄文時代晩期の土器も少量出土しました。

窪木遺跡は北溝手遺跡の東側に接しています。遺物は弥生時代から近世の土器などが出土しましたが、遺構は少なく、古墳時代および中世の溝がわずかに発見されました。

高松田中遺跡は平野に立地します。弥生時代の微高地が認められ、前期～中期初めの舟形土壌や溝が発見されています。この周辺の溝からは、細形銅剣の先端を転用して鑿に仕上げたものが出土しました。微高地以外の低位部については、古代以後開田されたと思われ、水田層が広範に認められました。その他古代から中世の遺構として溝などが多数発見されています。



高松田中遺跡（弥生時代前期から中期の遺構）

山陽自動車道の拡幅に伴う調査は、2月から3月まで三手遺跡を行ないました。三手遺跡は平野に立地し、昭和63年度に山陽自動車道建設に伴って調査を行なっていますが、その続きになります。遺物は中世から近世の土器などが出土しましたが、遺構は少なく、中世の溝がわずかに発見されました。また、調査区全域に水田層が認められましたので、中世のある時期には水田が広がっていたと思われます。

報告書は山陽自動車道で調査した津寺遺跡（公団岡山）と斎富遺跡（公団備前）の作成を行ないました。（平井 勝・伊藤 晃）

調査第三課

本年度の調査第三課の事業は、旭川放水路（百間川）の改修工事に伴う発掘調査と報告書作成、国道2号バイパス建設・国道53号キャブ（共同溝）設置工事に伴う発掘調査と国道53号北バイパス建設に伴う報告書作成、中国横断道（高梁工事区）建設に伴う発掘調査と報告書作成、新勝中央核工業団地建設に伴う報告書作成を実施しました。

旭川放水路の調査は、昨年度調査の上流部にあたる低水路右岸の岡山市百間川沢田遺跡の一部（4～6月）と、操山山塊の東端に近い低水路右岸の岡山市百間川米田遺跡の一部（7～3月）を行いました。沢田遺跡では、縄文後期の包含層や弥生後期末の水田の一部が見つかっています。米田遺跡では、微高地端部の斜面堆積土中から縄文晩期土器片が出土し、遺構は見つからないものの以前の調査にない新知見を得ています。遺構は、弥生後期から古墳時代初めにかけての住居址や井戸、溝や土壌が中心ですが、そのほか中世の建物や井戸、それに以前の調査で見つかった運河状の大溝に続くと思われる大溝の一部などもあります。なかでも、古墳時代初めの住居址の床面に掘られた粘土採掘坑とみられる穴や、同時期の井戸から出土した大形の紡錘車状の木製品が目されます。



百間川米田遺跡出土木製品

国道2号バイパスの調査は、岡山市橋原の橋原1号墳と7号墳を対象として4月から7月まで実施しました。両古墳は、南に竹原、北に南古都一帯の小平野を望む、比高約70mの丘陵頂部に隣接していました。調査の結果、1号墳は径約15.7m、高さ約1.5mの円墳で、主体部はほぼ完全に破壊されていて、かろうじて長さ約

3.2mの竪穴式石室とわかりました。副葬品は、小形鏡の小破片と管玉しか見つかっていません。7号墳は南北14mの方墳で、墳端の一部に葺石をもち、尾根の端に近い部分は墳丘が崩れていました。主体部は完全に破壊されていましたが、粘土椀のようです。遺物は流土中から鉄鏃と鉄先が出土したのみです。また、両古墳の下から弥生後期の土器棺と土壌が検出されたほか、ナイフ形石器なども出土しています。

中国横断道の調査は、高梁市巨瀬町の粧田山城を5月から6月にかけて行いました。



粧田山城遠景（東から）

粧田山城は、治承年間（1178年頃）に片岡弘常によって築城され、その後天正三年（1576年）の松山城落城に先立ち毛利の手に落ちたと伝えられています。城跡は標高約400mの山上に立地し、巨瀬庄から賀陽町の上竹庄に通じる要地にあたります。調査の結果、残念ながら城に関する遺構は確認できませんでしたが、中世の素焼きの土器や鉄製品・鉄滓が出土し、間接的な証拠を見つけることができました。

国道53号の調査は、岡山市清心町交差点から国体町交差点のやや北側の絵図町に至る約600m間の、道路西端に近い植栽と歩道にかかる下部の幅約2mについて、4月から11月まで実施しました。調査の結果、清心町交差点を含みそれから北へ約190m地点まで、同様に250m地点から320m地点までと450m地点から北にそれぞれ微高地と、微高地間に北東－南西方向の2本の旧河道の存在が明らかになりました。微高地は後世の削平などにより、遺構密度は必ずしも高くありませんでしたが、弥生後期－古墳時代初め頃を中心に土壌や溝が確認され、この周辺の遺跡分布状況を知る上で、多くの資料を得ることができました。（柳瀬昭彦）

最近の調査成果から

岡山市上伊福西遺跡出土の土製品

上伊福西遺跡は1994年9月から県立岡山工業高校の校舎建て替えに伴い約800㎡の発掘調査を行いました。

その結果、この遺跡が弥生時代後期から室町時代の集落址であることがわかりました。

特に弥生時代後期から古墳時代初頭の時期では遺構としては堅穴住居23棟、井戸4基等、遺物としては他地域からの搬入品と考えられる土器等を確認しています。

今回紹介する土製品は、時期を決める土器を共伴していませんが出土状況から弥生時代後期から古墳時代初頭に所属すると考えられます。

人形土製品は、径約25cmの円形のピット内で倒立した状態で出土しました。両腕は肩から折れていましたが、高さ9.5cm、幅2.6cm、胸部厚2cm、頭部厚2.4cmで頭部には何かを被っていた痕跡が見られます。

腰掛け形土製品は、土器が廃棄された地点の近

くで出土しました。9.7×3.0cmの水平の座板の長辺に高さ約2cmの脚がついています。脚には径6cmの円形の透かし孔があいています。

ここで紹介した土製品の用途ははっきりとしません。しかし、遺跡からはこれらとともにミニチュア土器（甕・鉢・壺・椀など）も出土していることから、何らかの祭祀に用いられていたと考えられます。(杉山一雄)



上伊福西遺跡出土の土製品 (約2/5)

岡山市高松田中遺跡出土の細形銅剣転用鑿

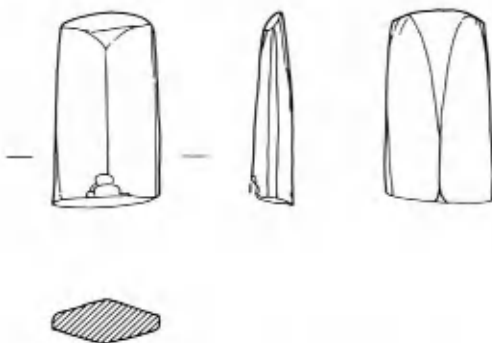
中国横断自動車道岡山・北房間の発掘調査は、本年度ですべての調査が完了しました。その最後の調査地である岡山市高松田中遺跡から細形銅剣を転用した鑿(のみ)が出土していますので紹介しておきたいと思えます。

高松田中遺跡は、岡山市の西のはずれ、総社市との境界にあり、JH総社インターの北西、JR吉備線の北側一帯に拡がり、弥生時代前期から中世にわたる複合遺跡です。この遺跡の調査は一昨年度から断続的に行なって来ていましたが、今年度の最東端地区の北側道の調査において、弥生時代後期の南北溝内から出土しています。この周辺には弥生時代前期末から中期初めにかけての土壙墓(舟形土壙)が十数基検出されており、溝とこの土壙墓は、切り合っており、土壙墓の副葬品の可能性も考えられます。

鑿は、銅剣の鋒(先端)を利用したもので、緑青色を呈し一見碧玉の感を受けます。最大長

2.55cm、最大幅1.4cm、幅1.2cm、厚さは0.6cm、重さは8.2gあります。先端部は、両面とも鑿に利用された時よく磨かれています。鑿は両面ともにみられます。

このような細形銅剣が、転用されているにしろ、良好な保存状態で遺跡から出土する例は、大変珍しいものです。(伊藤 晃)



細形銅剣転用鑿実測図(1/1)

普及啓発事業

開設10周年記念講演会

当センターは昨年11月1日をもって、開設10周年を迎えました。そこで、先号でも予告しましたように、11月26日に岡山県立美術館ホールにおいて、岡山県郷土文化財団との共催で、記念講演会を行ないました。

当日は好天にも恵まれ、8時すぎには一番乗りの方をお迎えして、定刻には230席が満席となる盛況でした。

午前の部は、例年夏に開催してきたスライド発表会の平成6年度版として、備前市長縄手遺跡、山手村平山古墳群他、総社市中山6号墳の各調査報告を当センター職員が行い、総社市横寺遺跡について総社市教育委員会職員から報告していただきました。つづいて、「文化財センター10年の歩み」として、これまたカラーライドを用いて、10年間に手懸けた延べ370遺跡の調査の中から主立ったものを振り返り、併せて発掘調査以外の当センターの業務についても紹介しました。

昼食を挟んで、午後は奈良国立文化財研究所長田中 琢氏により、「農耕の開始と発展」と



題して記念講演をいただきました。

「今朝、パンを食べてこられた方は手を挙げてみてください。」という問い掛けで始められた講演は、総社市南溝手遺跡出土の靱圧痕土器あるいはイネのプラントオパールを出発点として、前方後円墳の出現に至るまでを一気に駆け抜けるごとくお話いただきました。その対象は日本列島内にとどまらず広く東アジアにまで及び、近隣諸科学の成果をおり混ぜながら、時々場内から笑い声も聞こえる田中氏独特の口調によって、テーマを噛み砕いて論じていただきました。(光永真一)

平成6年度埋蔵文化財担当職員研修会

県内の市町村教育委員会で、埋蔵文化財保護行政を担当している事務職員を対象に、隔年で行なっている研修会を、35市町村から47名の参加者を得て3月22日に開催しました。

講師には、鳥根県教育庁文化課埋蔵文化財調査センター調査第4係長内田律雄氏と、岡山県



教育庁文化課課長補佐高畑知功氏を迎え、講演をいただきました。

高畑氏は、「文化財保護の現状と課題」と題して、埋蔵文化財の定義から始めて文化財保護法の概論を説いたのちに、岡山県内における現状を総括し、市町村での専門職員設置の必要性を課題として提示されました。

内田氏には、「鳥根県における埋蔵文化財行政の現状」と題して、文化財保護行政組織についての説明の後に、主に遺跡整備事業についてスライドを使用して紹介していただきました。荒神谷遺跡の発掘裏話なども交えながら、出雲国庁跡、古曾志古墳公園等の整備を始め、玉湯町などでの市町村主体による整備事業には、参加者も注目するところとなりました。(光永)

岡山県古代吉備文化財センター発掘調査一覧表 (平成6年度)

遺跡名	所在地	調査の原因	遺跡の内容	調査期間	面積(m ²)
1 中溝・北方地蔵遺跡	岡山市学南町・大和町	都市計画道路建設	弥生時代～中世の水田・溝他	4.1～3.31	4,320
2 大田茶屋・大田西奥田・大田大正園・大田松山久保遺跡	津山市大田	グリーンヒルズ津山建設	縄文～近世集落跡 古代官衙跡	4.1～3.31	12,640
3 三須・高田・金井戸・見延遺跡	総社市三須・井手	国道429号線改良工事	弥生時代～中世の集落跡	4.1～3.31	2,528
4 小中遺跡	勝田郡勝央町岡	ファミリーズマーケット建設	弥生時代～中世の集落跡・古墳群	4.1～3.31	18,890
5 青谷5号墳	岡山市田益	吉備新線建設	古墳	4.1～7.12	383
6 大牟古墳群	美田郡美作町上相	ふるさと農道美勝線建設	古墳～近世	4.11～7.14	860
7 上林散布地	総社市上林	前川改修工事	弥生～中世	5.16～5.24	100(確)
8 岡山城二の丸跡	岡山市内山下	中国電力岡山支店改築	中世～近世	8.1～9.29	1,280
9 上伊福西遺跡	岡山市伊福町	県立岡山上業高校実習棟改築	弥生～中世	9.5～11.9	800
10 下長田散布地・上野古墳	真庭郡八束村下長田	国道313号線改良工事	弥生～古墳	9.26～10.3	130(確)
11 十六夜山古墳園地遺跡	津山市穂高下	県立津山高校改築	弥生～古墳	10.3～11.1	300(確)
12 上伊福西遺跡	岡山市伊福町	県立島城高校生涯学習センター建設	縄文～近世	10.31～11.1	20(確)
13 惣台遺跡他	真庭郡久世町中原	県北流通センター建設	弥生～古墳	11.1～3.31	2,733(一)
14 九番丁場遺跡 大開遺跡	苫田郡鏡野町牟原	国道179号線建設	縄文～古墳	11.10～12.9	204(確)
15 田益田中遺跡	岡山市田益	国立岡山病院建設	弥生～近世	11.4～12.9	120(確)
16 *	*	笹ヶ瀬川調節池建設	*	12.12～12.19	48(確)
17 北溝手遺跡	総社市北溝手	中国横断道建設	縄文時代～中世の土壌、溝、水田他	4.1～1.31	8,666
18 高松田中遺跡	岡山市高松田中 総社市長良	*	弥生時代～中世の土壌、溝、水田他	4.1～1.20	6,634
19 服部遺跡	総社市北溝手・黒尾	*	*	6.3～10.13	5,075
20 裁田古墳群	総社市見延	*	古墳	6.23	30(確)
21 金黒池東遺跡	総社市福井	*	縄文包含層 古代火葬墓	6.27～7.5	230
22 西山古墳	総社市黒尾	*	弥生時代住居他古墳	8.22～11.21	2,050
23 窪木遺跡	総社市窪木	*	弥生時代～中世の溝、河道他	10.17～12.2	2,384
24 三手遺跡	岡山市三手	山陽自動車道拡幅	中世～近世の水田、溝	1.4～3.31	1,730
25 絵園遺跡 南方遺跡	岡山市絵園町 * 清心町	国道53号キャブ工事	弥生～古代の集落、水田他	4.1～11.30	1,234
26 橋原1・7号墳	岡山市橋原1031	国道2号バイパス	前期古墳	4.1～7.29	805
27 糠田山城跡	高梁市巨瀬946-3	中国横断自動車道	中世城跡 遺構確認されず	5.10～6.17	850
28 百間川原尾島遺跡	岡山市原尾島4丁目 1番地	国道2号原尾島拡幅	水田	11.1～11.14	31
29 百間川沢田遺跡	岡山市沢田	旭川放水路改修	縄文時代～中世の集落、水田	4.1～6.30	880
30 百間川采田遺跡	岡山市采田	*	縄文時代～中世集落	7.1～3.31	3,440

(確) 確認調査 (一) 一次調査



編集・発行

岡山県古代吉備文化財センター

所在地 〒701-01
岡山市西花尻1325-3
電話 (086)293-3211

●交通案内

- ・JR山陽本線庭瀬駅下車タクシー10分
- ・JR吉備線吉備津駅下車徒歩25分
- ・JR岡山駅下車岡電バス岡山駅前より
神道山行終点下車徒歩5分